

みちのく

少年編

—第42号—



令和2年度刊
仙台矯正管区

刊行のことば

本誌は、昭和五十五年の創刊号以来毎年刊行し、本号で四十二号を数えております。

当管区では「みちのく書画文芸コンクール」を開催しており、本誌には、同コンクールに応募した、当管区管内少年院の在院者の書画作品及び文芸作品のうち、各分野で御活躍の先生方の審査により入賞した作品を掲載いたしましたので、ご覧ください。

令和三年三月

仙台矯正管区

表紙の題字は久道石静氏の揮毫によるものです。

目次

【文芸部門入賞作品】

作文・・・・・・・・・・・・・ 2

【選評】川田永子先生

詩苑・・・・・・・・・・・・・ 10

【選評】原田勇男先生

歌壇・・・・・・・・・・・・・ 16

【選評】伊藤久子先生

俳壇・・・・・・・・・・・・・ 22

【選評】鈴木三山先生

柳壇・・・・・・・・・・・・・ 25

【選評】佐藤岩男先生

【書画部門入賞作品】

絵画・・・・・・・・・・・・・ 28

【選評】吉田利弘先生

ポスター・カレンダー・・・・・・・・ 32

【選評】鈴木智枝先生

書（毛筆）・・・・・・・・・・・・・ 34

【選評】村山柳雅先生

書（硬筆）・・・・・・・・・・・・・ 38

【選評】村山柳雅先生

書画部門審査総評・・・・・・・・ 41

《作文》

金賞

母の存在

青葉女子学園 W・E

私にとって母は、すごく大切な存在です。でも私は社会にいた時、大好きで大切なはずの母を何度も裏切り、泣かせました。もしかすると、私が少年院に入っている今もずっと、私の事で悩み、苦しんでいるかもしれません。

私は、中学一年の時から母と姉と暮らし始め、最初はずごく毎日が楽しかったのを覚えています。でも、中学三年の途中から家にいるのが嫌になり無断外泊が始まりました。高校受験前にはいったん落ち着き、無事高校にも合格できましたが、友人関係でうまくいかずすぐに不登校になりました。高校に行かなくなつてから再び外出・外泊が多くなり、一時保護所に入ることも多くなりました。保護所を出たり入ったりを繰り返し、気づいたら鑑別所に三回も入っていました。そんな私の元に母は毎回お金と時間をかけて会いに来てくれて、手紙もたくさん送ってくれました。面会の時の私は、ずっと下を向いて泣いているだけで、思っている事を素直に言ったりする事ができませんでした。そんな私を見て母は毎回優しく話しかけてくれていました。面会の度に私も母もたくさん泣き、たくさんいろんな話し合いをした事を今もずっと

覚えています。

今までの私は、警察に捕まって保護所や鑑別所に入っても、母が周りの大人を説得してくれたおかげで毎回家に帰ることができていました。でも、今回だけは違いました。三回目の鑑別所に入り、審判の時に裁判官から言われたのは「少年院送致」でした。この時の私は、少年院に入る事になった原因を母と友達のせいにしていました。母が審判の時に、「今の〇〇とは一緒に暮らせない」と言ったから少年院に来る事になったんだと、ずっと心の中で思っていました。今思えば、こんな考えを持って過ごしていた私は最低で最悪な人間だと思います。そして、どうして少年院に入る事になるまで、非行をやめる事ができなかったんだろうとたくさん後悔しています。

少年院に入つてからの私の生活は、決して良いと言えるものではありません。まだ二か月くらいしか経っていませんが、すでにやる気がなく、日課に出ているものの、真面目にやれている事が少ないです。いろんな事で先生たちに注意され、イライラし、集団生活ということを忘れてそれを態度に出してしまうので、最悪な状態だと思えます。

そんな私も最近になってやっと頑張ろうと思えるようになりました。きっかけは母からの手紙と、母と最後に会った時に母が言っていた言葉を思い出したからです。私は、母からの手紙がなかなか来なかった時、とても気分が落ちていました。だから、母からやっと手紙が来た時、手紙の内容を見る前から私は泣いていました。手紙が来ないの

は見捨てられたからだと思っていた私は、やっと届いた手紙を見て安心して泣いたのかもしれない。母は、私が社会に戻つてからの生活の事をちゃんと考えてくれていて、それが手紙の内容に書かれていたので、一日でも早く社会に戻るようになりたいという気持ちになりました。母から「待ってるから頑張っておいで。」と少年院に来る前、最後に面会した時に言われた事も、今の私にとつてとても励みになっています。

前にも書いてあるように、私は母に対して、今までたくさん迷惑と心配をかけてきました。それなのに母は私を見捨てず、ずっと待っていてくれます。そんな母に私は何もしてあげられていません。だから私は、青葉女子学園にいる間に自身を変え、社会に戻つてから母にたくさん恩返しができるようにしたいです。社会にいた頃の私は、考え方が子供で、自分の事をちゃんと分かっていませんでした。同じ事を何度も繰り返していたのも、大人に注意されても軽く受けとめ、約束を破つても自分は少年院に行く事は絶対ないと甘く考えていた部分があったからだと思います。だから、自分の悪い部分をちゃんと理解し、直していくことが大事だと思います。少しでも自分目に向けて物事を考え、行動する事ができるようになれば、自分自身を変えられると思います。母への恩返しも、今まで母に任せっきりだった家事などを手伝ったり、全部やる事で、母の大変さが分かることができたり、母への感謝の気持ちがあるに出てきたりと自分にとって良い事につながると思います。

少年院にいて辛い事もあるけど、大好きな母の
笑顔を毎日見れる日が一日でも早く来るように、
院生活を一生懸命頑張りたいです。



「強さ」

東北少年院 I・K

「殺った」、「殺られた」、そんな世界で生きてきた僕にとって「強さ」とは、力の上に立つということだと思っていました。いつ、どんな時でも対応出来るように常時一人で行動していました。元から一人が好きだったということもありましたが、孤独でいられるのも強さの一つだと思っていました。自分は強い、そんなことを思いながら生きていたので、何に対しても恐れることがなく、気の向くままに行動していた結果、後に後悔することとなります。

夜中のショッピングセンターの駐車場、恐怖の時間が開始しました。教台のセダン車に囲まれ、十人に満たない人数が車から降りてきて、二時間近く暴行を受けました。それだけで済めば良かったものの、車内に連れ込まれ、そのまま車が動き出しました。ドラマや映画でしか見たことのない光景が目の前ではなく、自分自身に降り掛かってきたのです。車内にいる間も暴行は続いていましたが、その時には既に瀕死状態だったため、抵抗する力もありませんでした。少し時間が経つと車が止まり、ドアを開けられ、外に出た後、僕の目の前には月で照らされた漆黒の海が広がっていました。それを見てしまった僕は、「終わった」、こ

う思いしました。瀕死の状態でこんな所に連れてこられたら、「沈められる」、こんなことを思うことしかできませんでした。何故このようなことになったのかは薄々分かっていたので、それに関しては何に疑問は無かったのですが、「殺されるのか」という思いがどんどん大きくなりました。今まで散々人を傷付けてきたのが原因で、こんな事になってしまったんだと痛感したことを覚えています。そして今、少年院にいます。

入院当初は社会当時の気持ちで抜け切れていなくて、先生に反抗したり、怒鳴ったり、反省の色が見えていませんでした。自分の思い通りに事が進まなければ文句を言って、面白くないことがあれば怒鳴って、社会当時と同じような環境を作り出そうとしていたのだと思います。そんな僕に手を差し延べようと近付いてくれた人がいました。それは僕の担任の先生です。僕がどんな人間なのか、あまり分からない状態からのスタートだったので、もしかしたら扱い辛かったかもしれせん。感情のコントロールが下手で、生意気で、なかなか心を開かない僕をずっと見守り続けていてくれました。時には感情のコントロールが出来なくて、ぶつかってしまった事もあったのですが、嫌な顔一つせず、僕のペースに合わせてくれました。何度か迷惑を掛けてしまいましたが、その都度、僕の背中を押してくれたりと、心が折れてしまいそうになった時に助けてくれました。人生の岐路に立っているこの大事な時に、このような出会いがあったことは、僕にとつてとても良いチャンスですし、感謝しかないです。恥ずかしい気持ちがあ

って、直接伝えられていませんし、今はまだ伝えられそうにないのですが、この感謝をしているという気持ちに気付けた頃から、僕の生活は正しい方に進み始めることとなりました。

少年院で気付けた事と、在院している間に達成したい目標があります。気付けた事としては、本当の「強さ」とは何か、ということですが、本当の強さとは、人を傷付けたり、馬鹿にして上に立つのではなく、人の辛さ、苦しさ、切なさ、これらを理解して、正しい道に導いてあげることや、その道を照らしてあげることだと思えます。それと同時に、人の背中を押してあげる、支えてあげる、見守ってあげる、このような事を損得で行動しようと思わず、普通にやれるひとのことを本当の「強い」人なのだと思います。そんな「強い」人が僕の身近にいます。それは作中にも出てくる僕の担任の先生です。目標としては担任の先生みたいなになりたいということ、照れ臭いかもしれないですが、僕の心の中にある感謝の気持ちを直接担任の先生に伝えるということですが、これらを達成することによって、僕も「本当の強さ」を掴み取る事が出来るかもしれません。いつ達成出来るかはまだ分からないですけど、絶対に達成しよう、達成したい、という気持ちが強くあります。自身の可能性を信じ、「強さ」を掴み取ってみます。

「銀河鉄道の夜」を読んで

盛岡少年院 M・K

僕はこの本を初めて読みました。読む前は、「宇宙にまつわる話なのかな」とか、「どんな物語なんだろう」と考えていました。

この話は、二人の男の子、ジョバンニとカムパネルラの学校の話から始まります。ジョバンニは、授業で呼ばれても顔を真っ赤にするくらいなので、とても恥ずかしがりやなかなと思いました。カムパネルラはとても勉強熱心で、学校に行く前に仕事をしていて、とても真面目な子だと思いました。

ジョバンニは学校の終わりに大きな活版所にいき、活字を拾う仕事をしていました。そして、稼いだお金でお母さんのために角砂糖一袋とパンを買いました。僕はこの文を読んで、ジョバンニはとてもお母さん想いの優しい子なのだなと思いました。

ジョバンニが小さな林の小道を進んで行くと野原の方から汽車の音が聞こえてきました。「銀河ステーション、銀河ステーション」とアナウンスが聞こえると、いきなり目の前が明るくなりました。ここまで読んで僕はとても幻想的なお話がいよいよ始まるなと思い、心が躍りました。現実ではありえないような話が起きるのが本の魅力なのだなと思いました。

ジョバンニとカムパネルラが一緒に旅をするお話が始まります。ジョバンニとカムパネルラがみている汽車からの景色は、普通の世界では百パーセント見られないような景色だったり、現実にはありえない停車場だったり、とても幻想的な旅をしているなど、うらやましく思いました。銀河を走る汽車、石炭を焚いていないのに走るとはどういう仕組みなのだろうと疑問が浮かびました。

カムパネルラは、お母さんが幸せになるなら何でもするけれど、なにをしたら幸せになるのだろうと考えました。僕はこの問いに共感しました。僕も今このような状況で、お母さんに何をしたら幸せになるのだろうか。そして、今後どのようなことをしたら幸せになるのだろうかと考えました。僕は、自分が幸せになればお母さんも幸せになれるのではないかと思いました。

銀河鉄道の旅が終わり、現実世界に戻ると、ジョバンニはカムパネルラが川に落ちたことを知らされます。四十五分経ってもカムパネルラが戻ってこないで、もう戻ってこないのではないかと思いました。僕は、これが銀河鉄道で彼らが行きたがっていた天上なのではないかと思いました。天上とは名前のおりで、天の上の世界。いわゆる天国だったのではないかと考えました。

この話を通して、僕は本当の幸せとは何かを考えさせられました。僕は、著者の宮沢賢治の「雨ニモマケズ」にもある、ほめられもせず苦にもさせられないことが、本当の幸せなのではないかと思えました。自分が褒められるためにするのではなく、苦にされないように行動したり生活したりすれば、

他の人が幸せになり、それが本当の幸せなのではないかと思いました。「銀河鉄道の夜」を読んで、新たな発見や疑問を見付けることができました。この本を読むことによりこの本を読んだ人と感想を共有したり、疑問について意見を交換したりすることが、新しい出会いの中での会話のきっかけになるのではないかと思いました。

宮沢賢治は岩手県出身で「銀河鉄道の夜」や「なめとこ山の熊」「注文の多い料理店」などの童話や「雨ニモマケズ」という詩を書いた有名な人です。そんな有名な人と同じ関連があることに誇りを持ちたいです。これからも宮沢賢治の本を読み、宮沢賢治の頭の中に入り込んで、考えていることや来世に伝えたいことを考えて理解したいと思えました。また、宮沢賢治の本だけではなく、他の作者の本を読んでみたりして、考えていることや伝えたいことを考えてみるのも楽しいと思えました。



後悔を通して気付けたこと

東北少年院 A K A S h i

僕のこれまでの人生は、「自分の人生なんかどうでもいい」と思うようになり、暗くて後悔が多い人生でした。

小学二年生の頃、転校してきた子が仲間外れにされていたので、僕は仲間に入れてあげました。そして、僕は、いじめられるようになり、学校で自分の居場所をなくしてしまいました。バスケットで自分の居場所をつくり、学校にも行っていました。また、義父との関係も悪く、家にいても、一人で部屋に閉じ籠ってゲームばかりしていました。小学校を卒業するまで我慢をして、生活をしていた。この五年間、「人を助けてあげただけなのに、なんでいじめられないといけないの」と、ずっと思っていました。家族には心配や迷惑をかけたくないから、何も言えず、学校の先生は助けられませんでした。

中学生になって、もう、いじめられるのは嫌だと思い、自分で何とかしようと「復讐」を考えました。そこで、不良交友に行きつき、復讐をし、そこから、自分の人生が大きく変わってしまいました。バスケットは好きだったので部活には参加していましたが、授業を受けることはありませんでした。そして、家族との関係が悪くなっていき、家にいたくないという気持ちが強くなりました。不

良グループに入り、家に帰らなくなり、何度も警察にお世話になりました。中学生の時から、不良の価値観になってしまい、非行が当たり前になってしまいました。非行するようになってから、まともな友達が自分から離れていってしまい、自分の周りには、不良仲間しか残りませんでした。中学生の頃は、部活や不良交友が自分の居場所でした。中学校を卒業してからは、自分の居場所はない仲間だけになってしまい、家族に何か言われても聞く耳を持ちませんでした。自分から家族を突き離して、勝手に大人への不信感を持つてしまいました。

そして、「バレなければいい」、「捕まらなければ大丈夫」と思って非行していたら逮捕され、少年院に入ることになりました。

少年院生活では、「なんで、今の自分が好きなのに変えないといけないの」という思いが強く、変える気がありませんでした。先生や他生からの助言や指導を受けても、ただ言い訳をして、受け入れることをしてきませんでした。しかし、入院して一ヶ月後に、家族の人が時間をかけて面会に来てくれました。僕は、家族を何度も裏切り、傷付けてきてしまいました。ですが、笑顔で「会いたかったよ」と言われ、すごく嬉しかったのを覚えています。そして、「もう、人・家族を傷つけないでほしい。更生して変わってほしい。信じてるよ。家族みんな待ってるから。」と言われ、最後のチャンスを与えたのだと思いました。それがきっかけで、自分を変えようと決意しました。そして、夢を見つけることができました。もし、家族との

面会がなかったら、変わろうと思っていなかったと思います。そして、楽に逃げたことに後悔をしています。「仕事」、「家族」、「自分」から、逃げて楽をしたことに対して、後悔をしています。そこで、僕は、後悔で終わらせたくないと思い、後悔を活かして自分を変えようと思い生活をしてきました。非行を始めた頃からの自分を振り返っていると、楽しいのは一瞬で、後から後悔ばかりしてきました。何もしてない人たちから幸せを奪い、傷つけて自分が幸せになったとしても、ズルい幸せだったなと思いました。社会人は、努力をして幸せな生活をしているのに僕は、楽をして幸せになろうとしていました。ですが、東北少年院に来てから、自分の考え方が大きく変わり、逆に来てよかったと思いました。色々なことに対して前向きになり、自分を変えることが、すごく楽しくなりました。そして、家族との関係もよくなり、より家族を大切にしたいと思いました。自分が変わることで、周囲の人と接しやすくなり、自分の居場所をつくることのできることに気づきました。

この少年院生活で色々なところが成長することができました。大人を信用することができなかったのに、先生方との面接で相談したりすることによって、大人を信用できるようになりました。そして、自分の考え方が変わったりしてきたのに対して、今までの人生で損ばかりしてきたと気づきました。このようなことから、これからの生活で、人を幸せにできるような人になり、幸せな生活をしたと思います。また、自分自身や人生を大切に、家族と楽しく幸せな人生を送りたいです。そして、

傷つけてきてしまった方に「ごめんなさい」と言
いたいです。



障害を持った人と働く

青葉女子学園 ライオン

私は、今回ある本を読んでこの作文を書こうと決意しました。その本は「光とともに：」という

本です。この本の主人公東光^{あずまひかる}はうまれながら「自

閉症」という障害を持っています。そしてこの本ではあまり知られていない自閉症児の特徴がマンガとして描かれています。この本の中では、生まれてから中学生になって祖母の家引越す所まで描かれています。

それでは自閉症の特徴についていくつか書きま

す。
特徴その一、言葉の遅れるタイプの子と遅れず
にしゃべれるタイプの子がいます。言葉の遅れる
タイプの子は、話しかけても言われた事をオウム
返しでかえしてくる事があります。ですがゆつ

くり短い言葉であればふつうの人と同じ返答がで
きます。
特徴その二、自閉症の子は、「こだわり」と言っ
て自分の好きな事、お気に入りの物などがあると、
その物などを何度も繰り返している事があります。
ですが自分の好きな事をやっているだけなのに止
められるとかんしゃくにつながります。

特徴その三、自閉症を問わずいろいろな障害を

持つ子供がいますが、その子どもたちの中に「聴
覚過敏」という、ふつうの人とは違う聞こえ方を
持つ子がいます。たとえば耳に入ってくる音で、
聞いて良い音と聞かない方が良い音があります
この判断をする耳の機能がうまく働かない子が
いたり、耳に入ってくる音の大きさを調節する機
能がうまく働かない子がいます。このような子
どもたちや大人たちを助けてくれるものがあり
ます。

それは「イヤーマフ」です。私も聴覚過敏を持
っているのでイヤーマフを部屋の中で使ってい
ます。
特徴その四、みなさんは、後からそつと触られ
てビックリしたことはありませんか。自閉症を持
っている子どもたちは、たとえばお友だちに耳を
ひ

っぱられたことがある。この場合、耳を触られ
るのを嫌がるようになる子が多いです。

特徴その五、自閉症の子は自分で危険な場所
などに入っていくことがあります。手をひっぱる
のではなく、その子の正面に回りこんで体で止
めます。その後「ここは危ないです。近づけませ
ん」など止めた理由を短い言葉で伝えて下さ
い。

自閉症の人の特徴はもつとたくさんあります。
中には、注意欠陥多動性障害を合わせ持つて
いる人もいます。

私も多動性障害でなやんでいます。ですが一時
期仕事をしていた事がありました。うまくいく
時とうまくいかない時がありました。

ここで私の体験談を書きますね。

私の体験談その一、私が小学校の頃の話ですが、
私は一年生になってから宿題が出たりしますが、
一、二年生の頃だと問題がかんたんですが、私は

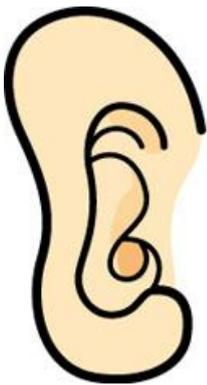
誰かに教えてもらわないと、できなかったです。
そして高学年になるにつれて宿題を見ただけで
かんしゃくを起こすようになりました。

私の体験談その二、私は、小・中と学校に通
てましたが、多動性障害を持っていたため、授業
中じつとしてることができず、勝手に立ち上がり、
先生に怒られてしまうことがたくさんありました。
それにともない、いじめも始まりました。自分
の中では困っている状態なのに、クラスメイトも
先生からも理解してもらえず、とてもつらかった
思い出が、今でも深く残っています。

みなさんは、障害を持った人をいじめたり、傷
つけたりしていませんか。

私のように、障害を持っている人にも持ってい
ない人にも、仕事をする力があります。なので、
障害を持つている人には、周囲の人のサポートを
受けながら、学校へ通ったり、仕事をする権利は
あります。

もし、周りに障害を持った人がいたら、全力で
サポートしてもらえると、嬉しいです。これから
先、障害を理解してくれる人がたくさん増えてい
くことを願っています。



【選評】— 作文 —

東北アララギ会「群山」編集委員

日本歌人クラブ会員

宮城県芸術協会会員

川田 永子

今回の作文への応募数は八編でした。いずれの作文も、思考の確りした内容を盛り込み書かれていて感心しました。全編を紹介出来ずに残念ですが、規定の賞を次のように紹介します。

金賞「母の存在」

青葉女子学園 W・E

母の存在とは、自分にとってどんなに大切なものかと、深い意味を込めて思索し表現されています。毎回、面会に来てくれる事や、手紙を沢山送って励まして呉れる母に対する感謝の気持ちが丁寧で、よく伝わります

銀賞「強さ」

東北少年院 I・K

院内の優しい先生によって、本当の「強さ」を悟り、感情のコン

トロールも出来るようになった。

それで今後の人生を、その担任の先生を手本として歩みたいとの経緯を、順序良く表現されています。

銅賞「銀河鉄道の夜」を読ん

盛岡少年院 M・K

主人公二人の幻想的な心理状態を、深く読み込んでいます。つまり、前後の内容を良く捉えて、その気持ちを考え、表現されていて納得できる感想文となっています。

佳作「後悔を通して気付けたこと」

東北少年院 A K A S h i

小学校時代からのいじめ問題などに触れつつ、家族への優しい思い遣りが解り易く表現されています。

佳作「障害を持った人と働く」

青葉女子学園 ライオン

読書に依って、自閉症の状態を知った事やその特徴を順序立てて書いています。自分自身もそれを患っている事にも触れて、理解を求めている結末がしつかりしています。

尚、掲載できず残念ですが、東北少年院のA・Yさんの「ひまわり畑で会うならば」の読み易い文章が良かったですね。更に、盛岡少年院のS・Kさんの「注文の多い料理店を読んで」や、W・Yさんの「銀河鉄道の夜を読んで」なども、読書感想文としての順序表現が整っていました。

《詩苑》

金賞

心に刻む

東北少年院 I・M

忘れたくない。
大切な人が自分を大切にしてくれていること。自分の身を削り、私に愛を注いでくれる人がいること。

裏切っても裏切らず、傷付けても傷付けず、私の言葉を信じ、支えてくれる人がいること。見返りを求めず、尽くしてくれる人がいること。

この一年、多くのことを知った。

弱さを認める事は強さであり、謝る事は決して恥ではなく、勇気だということ。

人は弱く、だからこそ支え合うのだという事。

大切な人を想い、大切な人との時間を慈しみ、寄り添う事の大切さ。

人を想い、感謝を言葉にして伝える事の大切さ。

強さとは人を傷付けることではなく、又弱さとは恥じる事ではないということ。

全てを知っているようでいて、自分が何も知らないのだという事を、知った。

失ってから気付くその大切さを、私は失ってから気付いた。

非行を通し、何をしたかったのか、何になりたくて何を目指し、どこに向かっていたのか。誰のためになり、誰を泣かせて来たのか、非行を通して何を得て、何を失ったのか。人の声に耳を傾け、自分を見つめ、己を正す勇氣を持てば、他の生き方があったのではないか、自分で選択肢を狭めていただけではないかと、今は思う。

もう失った物は戻らない。だからこそ後悔しないために生き直す努力をしようと、本当に強く、そう思う。



文字に宿る魔力を信じて

盛岡少年院 K・T

夢も希望も あったものではなかった
何故私を産んだのだと

この先も生きていて何になるかと

ただそればかり考えていた

行き着いた先は 退学だったし

留置場だったし 少年院だった

初めてであった不良らしい不良と

生活を共にした 案じたのは絶望だけ

右も左も分からぬ ただ鬱々とした人間が

諸手を挙げて歓迎される訳はなかった

けれど毎日 一緒に過ごしているうちに

皆私のことを知ってくれて

認めてくれたのだと思う

それに皆 いつでも明るくて

笑うときには笑った

だからやっと 私は素直になれた

もう少し生きてみるのも悪くないかな

そう思えるようになった

正に命の恩人だった

だがしかし、私を救ったあの寮も 今は幻

所属寮の解体と転寮という憂き目に遭って

もう五か月になる

それでも私が 我を忘れずに居られるのは

彼らが今も 私の心の中に

棲んでいるから

太陽が隠れはしても 消えることがない様に

彼らが近くには居なくとも

思い出すことは出来るから

だからまず 少年院に送り出してくれた

裁判官に ありがとう

そして個性豊かな 仲間達に 先生方に

恥ずかしいから少しだけ ありがとう

こうして文字に起こせば いつか必ず

社会で輝く皆に届くと 固く信じて



生きる

東北少年院 K・K

宇宙が私をつくったお礼に私が宇宙をつくろう

私が貴方に手を差しのべて

貴方が私の手を握る

貴方が土から立ちあがり

土から新芽が顔を出す

芽からキレイな花が咲き

キレイな花にハチが寄る

ハチが甘い蜜を作り

甘い蜜を熊が食う

熊が冬を越せずに死に

冬が春の水を呼ぶ

水が集まり海になり

海が青い星になる

私が宇宙をつくるように宇宙は私をつくるのだ

差しのべる手も

立ち上がる足も

花を見る目も

蜜を食う口も

さざ波の音を聞く耳も

有ることがただ難しい
だから
宇宙が私をつくったお礼に私が宇宙をつくろう



七転び八起き

盛岡少年院 U・Y

七転び八起き、名前の通り七回転び、八回起き上がる。
こんな歌がある。

時に、はりさけそうなハートガラス怖かねえさ転んでも立つ、
涙ふところにしまい、そんで笑う、弱音は吐かねえが本音は
泣く。

朝を待ちわび夜は長く、一人眠る前のひと時に泣く。

痛くねえよ、これぐらいじゃへこたれねえのが男なんだ。と、
この歌に何度も勇気ももらった。

七回転び、八回起き上がる、十回転べば十一回起き上がる、
百回転べば百一回起き上がる、僕は今まで数え切れないほど
転んできた。そして立ち上がった、そしてまた転び今は、少
年院の中に居る。

僕は今また立ち上がろうとしている。

手は泥だらけで、体は傷だらけだ、それでも涙を、ふところ
にしまい笑う、どんなに無様でも、無理やりでも立ち上がる。
これぐらいじゃへこたれないのが男だからだ。目の前に見え
るかすかな光に手を伸ばし、手のすき間から光がすりぬけて、
またその光を追いかけ、この先何度も僕は転ぶだろう。
そのたびに起き上がり僕は進んで行く。



大切な人

東北少年院 S・I

誰もが皆、大切な人がいるだろう。

それはボクにも存在する

お父さん

お母さん

二人はボクにとってはこの世にたった一人の存在で、まるで太陽のようにあたたかくボクを見守ってくれている。

二人からしてみれば、ボクが大切な人ということになるのだろう。

どれだけ裏切っても

どれだけ傷付けても

二人はボクを大切に思ってくれていることを知った。

それだけではない。

ボクはこれまで色んな人の大切な人を傷付けてきたこと

も、ボクを大切に思ってくれている人に対して、ボクという

大切な人を傷付けてきたんだと知った。

大切な人なのに裏切るのをおかしいのではないか？

だけど、裏切ってから気付いたんだ。

それはあり得ないことかもしれない、遅すぎたかもしれない。

それでも気付けたことがボクの変化でもある。そして気付けたからこそもう二度と裏切るようなこと、傷付けるようなことはしないという思いになれたのだ。

誰もが皆、誰かの大切な人であり

傷付けば悲しむ人がいる。

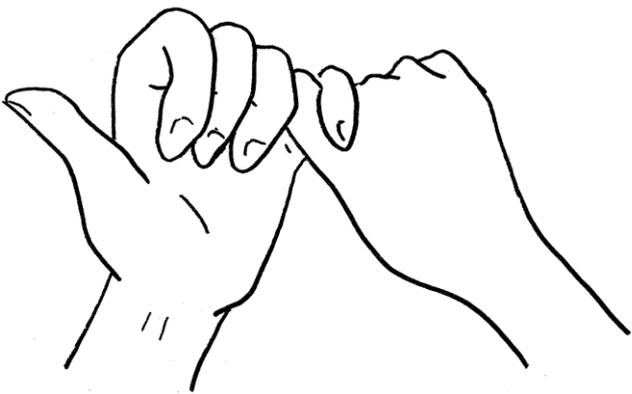
だが逆に

笑顔ならばどうだろう

きつと誰もが嬉しいだろう

だから忘れてはならないのだ

人が人を想う気持ちを



【選評】—詩—

日本現代詩人会会員
日本文藝家協会会員
宮城県詩人会顧問

原田 勇男

応募作品は八篇。金賞はI・Mさんの『心に刻む』。この世を生きに行く上で忘れてはならないこと、知らなければいけないことがある。非行に走っていたころは気づかなかつたが、「この一年 多くのことを知った」と、さまざまな事柄や人の優しさ、感謝の気持ち、何よりも心の持ち方を学んだ。そのことを率直に受け止め、「後悔しないために生き直す努力をしよう」と再生を誓っている。

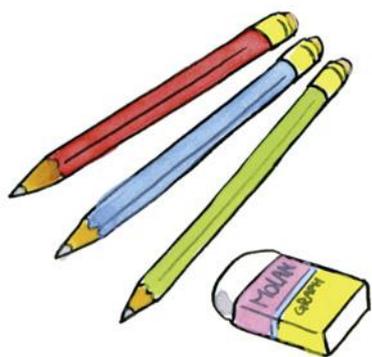
銀賞はK・Tさんの『文字に宿る魔力を信じて』。夢も希望もなく非行に走った自分だが、少年院で知り合った人たちや先生方との交流を通じて、立ち直るまでの心の

葛藤を表現している。そして「少年院に送り出してくれた／裁判官にありがとう」という感謝の言葉まで発している。今後も自分の気持ちを文字で表しながら再起してほしいと願う。

銅賞はK・Kさんの『生きる』。作品は粗削りだが、宇宙と対峙する壮大なスケールが今回の応募作の中で唯一の個性的な詩篇だった。宇宙が造った地球上で植物や動物の生死と季節の移り変わりが続いている。その大自然の姿を見つめるのは私という人間存在なのだ。宇宙のなかの生命の営みを表現した作品だと思う。

佳作のU・Yさんの『七転び八

起き』は何度も挫折しながら、反省し立ち直ろうとする決意を語っている。S・Iさんの『大切な人』は自分が裏切り傷つけたのに、太陽のように見守ってくれる両親へ感謝している。



《歌壇》

金賞

新品の消しゴムの角丸くなる素直に僕もそうでありたい

東北少年院 K・K

銀賞

二人での初めての夏バケツ持ち向かった先は夕暮れの海

盛岡少年院 T・S

雨ガッパはおり戦の準備整え母は今日も病院を走る

東北少年院 K・R

面会でおどけて見せるパパとママ先生が言う泣いていたよと

東北少年院 K・K

向日葵や蟬の鳴き声青空と脳裏に映える故郷の景色

ふるさと

東北少年院 H・R

ごめんなさい素直になれば幸せだ今後必ず親孝行だ

東北少年院 G・I

過去思い今日を見つめて夢を持つ時を駆けてく今を生きてく

東北少年院 S・K

薬物はその時だけの快樂で良いことなんてひとつもないよ

東北少年院 U・Y

梅雨の時期洗濯物が乾かない良いこと探しいくつあるかな

東北少年院 A・Y

薬物がない生活は新鮮だこのままずっとやめ続けるぞ

盛岡少年院 S・T

人生は失敗をして反省しそれを活かして幸せになる

東北少年院 H・R

勉強はすればするだけ身になるよせずに文句は努力不足

東北少年院 D・S

再非行しない為の対策を最終的には自分の気持ち

東北少年院 S・K

毎晩の夢に出てくる理想の未来必ず見てやる自分の瞳で

東北少年院 K・R

その一歩あるのとないとじゃ大違いたった一歩で救われる人いる

東北少年院 K・S

今の僕スタートラインにまだ立てず自分と戦い進み続ける

東北少年院 T・R

捕まっっているんな物を失ったそれとひきかえに愛を学んだ

東北少年院 O・T

もう二度と傷付けはしない身体をぼくの体よ今までごめん

東北少年院 S・I



【選評】— 短歌 —

「橄欖」運営委員

「橄欖」宮城支部代表

日本歌人クラブ会員

宮城県芸術協会 文芸部運営委員

宮城県歌人協会 「橄欖」代表

伊藤 久子

令和二年度の少年の部は五十七首でした。

【金】新品の消しゴムの角丸くなる素直に僕もそうでありたい
K・K

「評」「消しゴム」と言う素材がい
い
いです。使えば当然角は丸く、人間にも喩えられますね。

【銀】二人での初めての夏バケツ
持ち向かった先は夕暮れの海
T・S

「評」潮干狩りでしょうか？バケツは。二人というだけで若々しいし「夕暮れの海」がいい。

【銀】雨ガッパはおり戦の準備整え母は今日も病院を走る
K・R

「評」病院で働く母を思いやつての歌。仕事を戦に喩えて、大変さが伝わって来ます。

【銀】面会でおどけて見せるパパとママ先生が言う泣いていたよと
K・K

「評」面会では当人を励まそうとおどけて見せた両親でも、本当は辛かったのでしょうか。

【銅】向日葵や蝉の鳴き声青空と
脳裏に映える故郷の景色
H・R

「評」頭の中に描いた故郷の夏景

色、暑い狭い部屋での思い出は楽しく懐かしく共感を呼ぶ。

【銅】ごめんなさい素直になれば
幸せだ今後必ず親孝行だ

「評」今までを反省し素直になろうと努力するつもり、そして自分を変えて親孝行する。
G・I

【銅】過去思い今日を見つめて夢
を持つ時を駆けてく今を生きてく
S・K

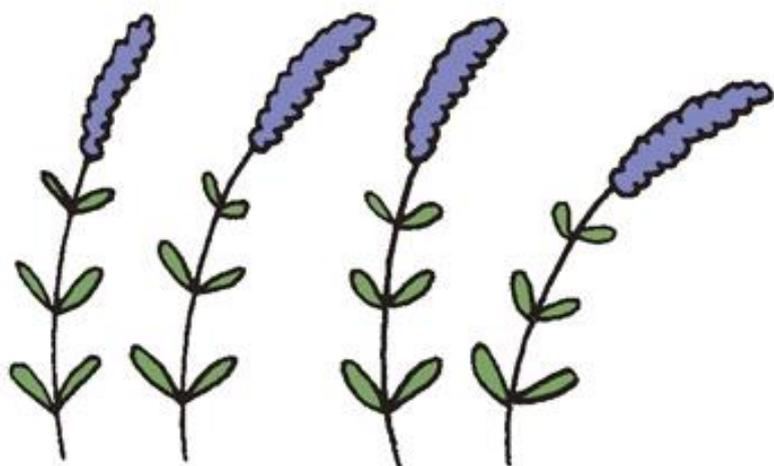
「評」三十一音にたくさんの言いたいことを詰め、標語のよ
うに言い聞かせています。
【銅】薬物はその時だけの快楽で

良いことなんてひとつもないよ
U・Y

「評」 自分の体験を晒しだして、世の中の少年達に薬物の害を啓発して導こうとしているところに、真実性を感じる。

【銅】 梅雨の時期洗濯物が乾かない良いこと探しいくつあるかな
A・Y

「評」 これは、現実をうたっています。洗濯物が乾くまで、良い事探しの前向きがいいです。



《俳壇》

金賞

桜咲きアフロディーテ舞い降りる

東北少年院 W・R

銀賞

曇天の潤みに光る青紫陽花

東北少年院 K・R

誰よりも遠くに飛ばせスイカの種

東北少年院 K・R

桜見て感動したのは塀の中

東北少年院 S・I

銅賞

虫の音が雨にて止まる梅雨の夜

東北少年院 K・K

柵の向こう赤く染まった紅葉たち

東北少年院 T・R

想うたび僕の心に雪積もる

東北少年院 O・N

冬の音君の口から白い息

東北少年院 O・T

先生と落ち葉の掃除まめできた

青葉女子学園 I・M

梅雨過ぎて暑い日続きダイエツト

盛岡少年院 S・K

赤トンボ思いをのせてどこまでも

盛岡少年院 K・R

命かけ暑さと戦うせみの声

東北少年院 K・S

明け暮れや耳を澄ませば虫の声

東北少年院 H・R

秋香る紅い色のいろは坂

東北少年院 I・D

みちのくを書く季節がやってきた

東北少年院 N・R

洗面でプールの思う塩素臭

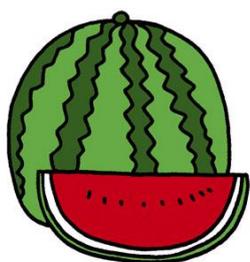
東北少年院 K・K

紅葉の見えぬ部屋にも秋一つ

東北少年院 S・K

今年こそ家族と見たい海景色

東北少年院 U・Y



【選評】—俳句—

現代俳句協会宮城県支部幹事

宮城県俳句協会常任幹事

宮城県芸術協会委員

鈴木 三山

俳句は十七文字で表現する短詩型文芸のため、次の三つの要素が求められます。

一、五七五の定型詩であること
二、季語が一つ必要である（季節に對するあいさつ）

三、切れがあること（短詩型のため省略や切れ字が必要である。）

特に季語については原則としてですが、一句の中に季語が二つ以上あったり、季語の説明をすることはよい俳句とは言えません。それでは選評に入りましょう。

桜咲きアフロディーテ舞い降りる
東北少年院 W・R

日本の桜の季節は本当に素晴ら

しいです。その桜を作者はギリシヤ神話の美と愛と豊穡の女神とされるアフロディーテが舞い降りてきたのだとしました。素晴らしいたとえです。

曇天の潤みに光る青紫陽花

東北少年院 K・R

紫陽花は実に色々な色で咲きます。作者の見ている紫陽花の色は青色。梅雨の時期だからみずみずしいのですが、曇り空の下で一層青さが極だったのかもしれない。

誰よりも遠くへ飛ばせスイカの種
東北少年院 K・R

夏の砂浜などで、スイカわりや種飛ばしなどの遊びが行われている

ることがあります。スイカの種飛ばしは簡単そうで難しいが、必死で飛ばしつこに参加したり応援したりしている様子が見てとれます。

桜見て感動したのは塀の中

東北少年院 S・I

桜見物は普通は名所など外です。ものですが、この場合は塀の中です。しかし今までにないような感動が得られたのでしようね。どのような状況の中でも大切なことです。

今回はこのほかにもいい句が多数ありました。季語の選び方や物に託した気持ちの表現の素晴らしさに感心させられました。

《柳壇》

金賞

靴のよう人を支える人になる

盛岡少年院 I・A

銀賞

君思う夜空に咲いた恋花火

盛岡少年院 M・Y

十年後の笑顔の保険今掛ける

東北少年院 K・R

光射す母の笑顔と青い空

東北少年院 H・R

銅賞

いいじゃん辛い時なら泣いてもさ

東北少年院 S・M

夢があるそれが僕らの糧となる

東北少年院 S・K

窓の外見上げる空はみな同じ

東北少年院 S・I

家族とはかけがえのない存在だ

東北少年院 U・Y

教室で皆が奏でるベルの音

青葉女子学園 I・M

ゴメンねのその一言がかけられぬ

盛岡少年院 H・R

ありがたき離れて分かる皆の思い

盛岡少年院 K・R

来年は家族と共に過ごすんだ

盛岡少年院 W・Y

人生は一回夢を抱えてつっぱしる

盛岡少年院 A・K

家族との思い出の数涙する

東北少年院 K・S

懸命に尽くされたなら懸命に

東北少年院 K・K

ごめんなさいその一言で成功へ

東北少年院 G・I

辛いとき思い出すのは母の顔

東北少年院 S・R

両親に口にはしないありがとう

東北少年院 T・R

命からあふれる元気ありがとう

東北少年院 I・K

どちらかなごめんなさいとありがとう

東北少年院 A・Y

【選評】—川柳—

川柳宮城野社同人
宮城県芸術協会会員

佐藤 岩男

たくさんの佳句に出合うことが出来ました。生まれて初めて「川柳」に挑んだ方々も多かったと思います。がどうだったでしょうか。

人間は、いろいろな人たちと一緒に生活して行く中で、嬉しいこと、悲しいこと、腹の立つこと、楽しいことなどはいろいろな方法で、少しずつ分け合い、共有しようとし、これが人間と他の動物たちとの大きな違いだそうです。そして、「川柳」もその手段の一つなのでしょう。だから、それぞれが工夫して、自分の気持ちを川柳に託し、素直に伝える事が出来れば、まわりも素直に受け入れ、もめごとなんかは少なくなるでしょう。

自分のこれからの歩み方、故郷で

待っている家族（お母さんが多かったです）や友人、自分を育んでくれた自然のことなどをいつもの話し言葉で詠んだ句が多かったです。

上手な句は、詠む回数を重ねたり、多くの佳句を詠んでいると、出来るようになります。

かつて、ある先輩に「佳句とはどんな句ですか？」と尋ねたところ彼は「百人が読んだら百通りの解釈が出来る句かな」と答えてくれました。

「お小遣い忘れぼくだけアイスなし」この中学生の遠足の句をどう思いますか。



《 絵 画 》

金 賞



『僕の心』

東北少年院 K・U

【選評】 筆先を使った緻密な彩色で、今の心の中を表現しようとする努力が感じられる。

※表紙掲載作品

銀 賞



「春の訪れ」

盛岡少年院 M・Y

選評 長い冬から開放されて
萌える春の草木の長閑な
様子が表されている。

「紫陽花」

青葉女子学園 ふ

選評 統一された色調の中で、
紫陽花の持つ雰囲気がよく
表されている。



銅 賞



「夕焼け岩手山」

盛岡少年院 S・T

選評 岩手山の雪原に夕陽の映える様子が描かれ、寒さとともに静けさを感じられる。

「シクラメンのある窓辺 ～朝～」

東北少年院 K・R

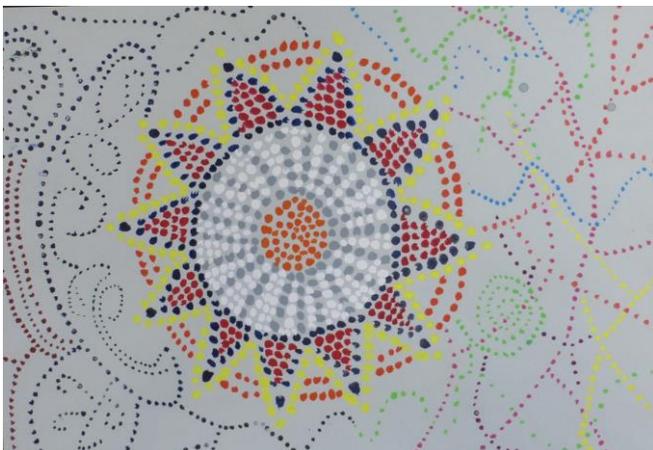
選評 ストープのある窓辺で、春の陽差しを待つシクラメンの姿がよく表現されている。



「人生」

東北少年院 S・R

選評 配色に工夫がされており、フォルムと色彩から、様々なイメージが浮かぶ作品である。



佳 作



「苦悩」
東北少年院 I・M



「枯木に集まる魂」
東北少年院 K・H



「夕陽」
盛岡少年院 I・A



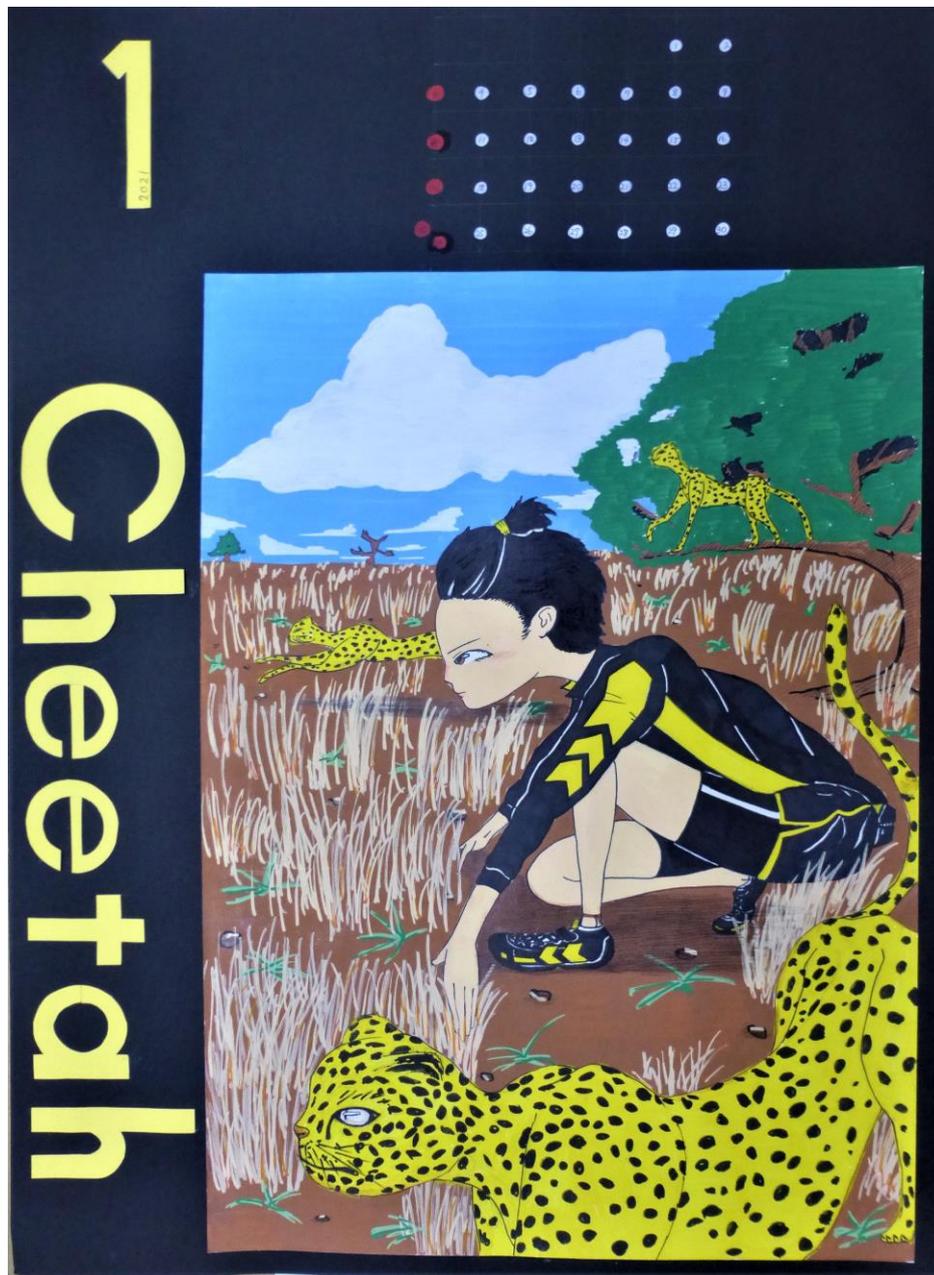
「僕の夢」
盛岡少年院 A・K



「紫陽花」
青葉女子学園 お

《 ポスター・カレンダー 》

金 賞



「令和3年1月カレンダー」

東北少年院 K・R

選評 とても良いレタリングです。絵柄も美しい。日付の文字が小さすぎ残念。

銀 賞

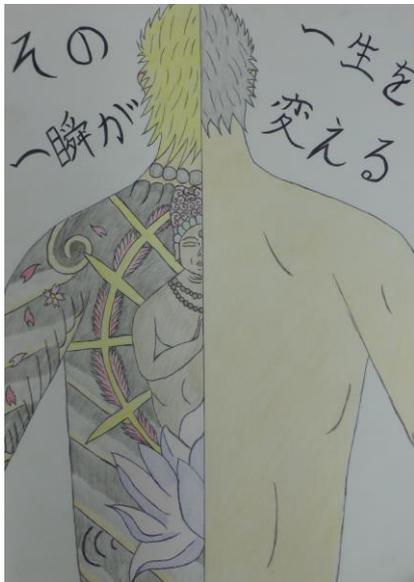


「薬物やめますか 人間やめますか」

東北少年院 K・S

選評 意味する所は伝わります。ポスターとして標語が目立つようレタリングがんばりましょう。

佳 作



「その一瞬が一生を変える」

東北少年院 S・I

選評 スッキリとまとめてはありますが、標語と絵が結びつきにくい所が残念。

銅 賞



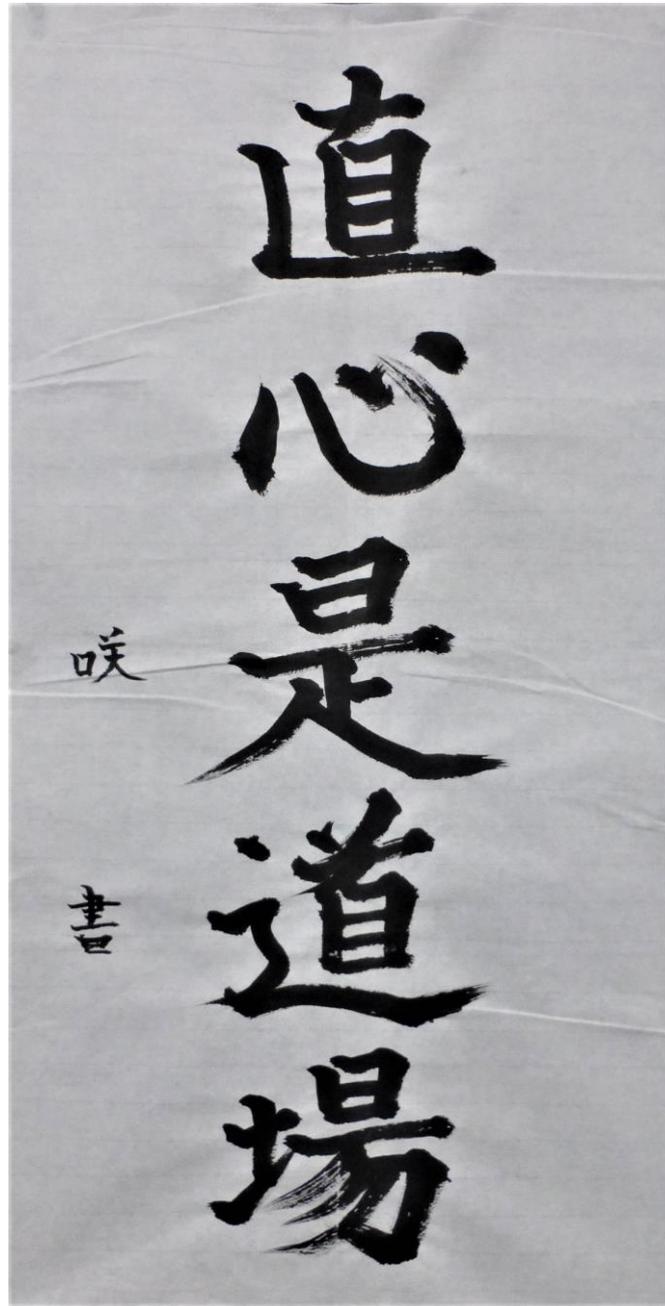
「犯罪で大切な人を失いますか」

東北少年院 S・M

選評 背景の黒は成功です。標語をしっかりとレタリングしてほしい。

《 毛 筆 》

金 賞

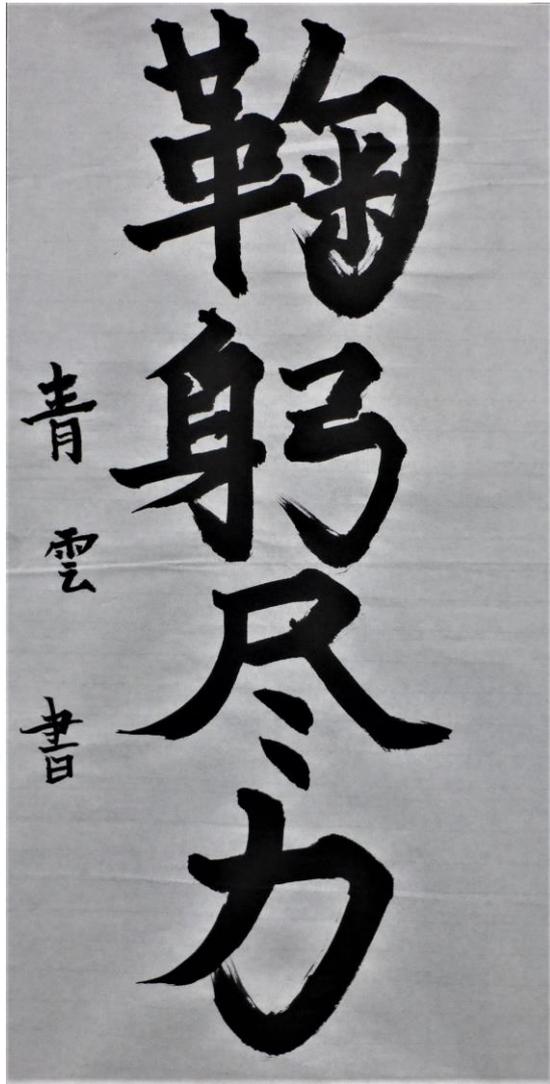


「直心是道場」

東北少年院 咲

選評 作品の中心が通り楷書の字形も整正。秀品。

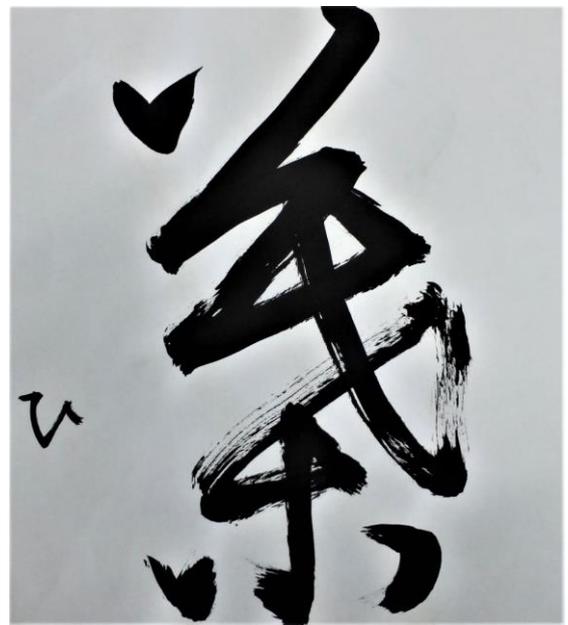
銀 賞



「鞠躬尽力」

東北少年院 青雲

選評 一点一画気魂を込めた書作で
重厚感に満つ。



「葉」

青葉女子学園 ひ

選評 筆の動き大きく渴筆も躍動感
を高めている。

銅 賞



「葉」

青葉女子学園 わ

選評 行書体で「葉」を書作。

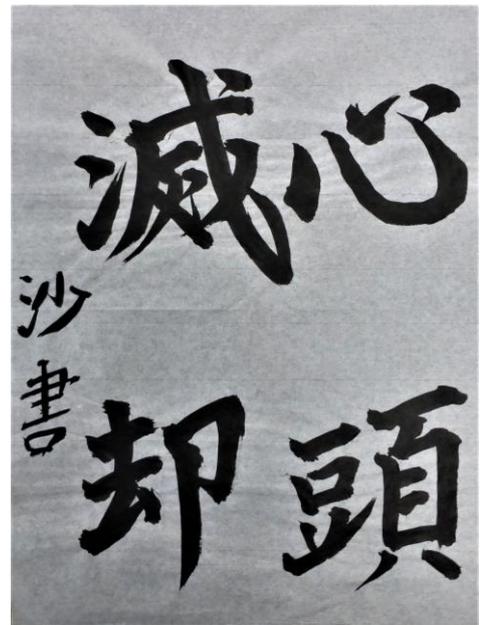
点画の変化も正しく見事。

「心頭滅却」

東北少年院 沙

選評 四字の字粒の balan

スも良く、端正に書きあ
げている。

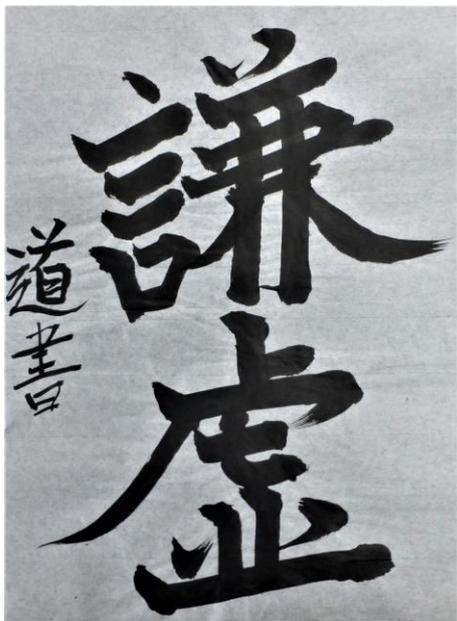


「謙虚」

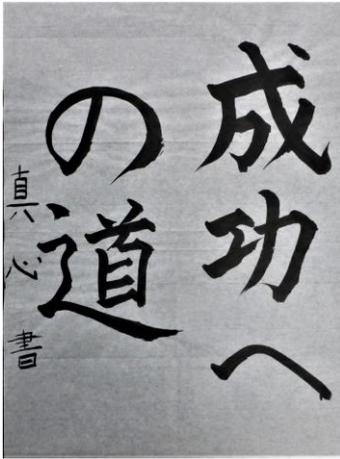
東北少年院 道

選評 勢いのある運筆がエネ

ルギッシュで若者らしい。

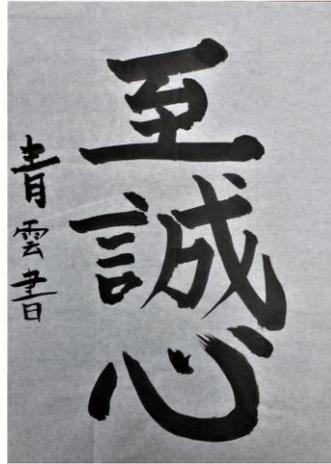


佳 作



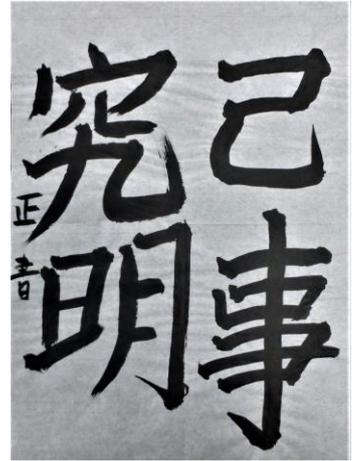
「成功への道」

東北少年院 真心



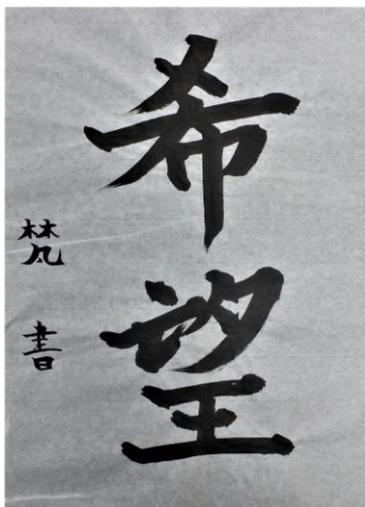
「至誠心」

東北少年院 青雲



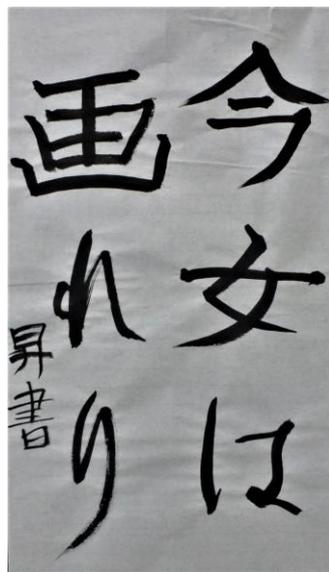
「己事究明」

東北少年院 正



「希望」

東北少年院 梵



「今女は画れり」

東北少年院 昇

《 硬 筆 》

金 賞

枕草子

清少納言

春は、あけぼの。やうやう白くなりゆく、山ぎは少し明りて、此糸だちたる雲のほそくたなびきたる。

夏は、夜。月の頃はさらなり、闇もなほ、蛍の多く飛びちがひたる。また、た

「枕草子」

東北少年院 K・U

選評 字形美しく行の乱れもない終始一貫見事である。

銀 賞

雨ニモマケズ
宮沢 賢治
雨にもまけず
風にもまけず
雪にも夏の暑さにもまけぬ
丈夫なからだをもち
怒はなく決して瞋らず

「雨ニモマケズ」

盛岡少年院 T・S

選評 漢字をひらがなより
やや大きく、行頭もそろ
ってよく書けた。

銅 賞

「原始、女性は太陽であった」

青葉女子学園 お

選評 無理なく優しさあふれ
る書きぶりで好感。

元始、女性は太陽であった
平塚 らいてう
元始、女性は実に太陽であった。
真正の人であった。今、女性は月
である。他に依って生き、他の光に
よって輝く、病人のような蒼白い顔
の月である。

佳 作

雨にも負けず	宮澤 賢治
雨にも負けず 風にも負けず	
雪にも夏の暑さにもまけぬ	
丈夫なからだをもち	
怒はなく 決して瞋らず	
いつも静かに笑っている	

「雨にも負けず」

盛岡少年院 H・R

雨ニモマケズ	宮沢賢治
雨にもまけず 風にもまけず	
雪にも夏の暑さにもまけぬ	
丈夫なからだをもち	
怒はなく 決して瞋らず	
いつも静かに笑っている	

「雨ニモマケズ」

盛岡少年院 S・K

座右の銘	西郷 隆盛
命も要らぬ、名も要らぬ、	
官位も要らぬ人は始末に困る	
ものなり。この始末に困る人な	
らでは艱難を共にして国家の	
大業を成し得ざるものなり。	

「座右の銘」

東北少年院 K・R

書画部門審査総評

【絵画】

一点一点に一人一人の思いが描き表された魅力ある作品が集まりました。特に入賞作品は、全てに渡って構図、色彩に工夫の跡が感じられました。

宮城県芸術協会執行理事

吉田利弘

【ポスター・カレンダー】

作品数が限られている中での賞です。ポスターの役割、カレンダーの役目をもう一步考えてみましょう。もっと良い作品になります。

宮城県芸術協会運営委員

鈴木智枝

【毛筆】

一筆一筆の点画が確実に一生懸命に取り組んでいるのが感じられる作品ばかり。字体も楷書だけでなく施設によっては行書や草書の作品もあり内容豊富であった。強い線條の若者らしいエネルギーが満ちた作品は好感度高い。

東北書道会副会長

村山柳雅

【硬筆】

丁寧な書きぶりで終始集中して書き上げていて秀逸である。全体に筆圧のあまり強い作品が無いが、その分明るく優しい雰囲気のものが多かった。

東北書道会副会長

村山柳雅

編集後記

本年度も、みちのく書画文芸コンクールとして書画作品及び文芸作品の応募を募りましたところ、各施設からこれまでと変わりなく多数の作品が寄せられ、本書画文芸作品集の発刊の運びとなりました。

文芸作品については、御審査を賜りました先生方の多大なるご協力のもと、各分野において金賞、銀賞、銅賞及び佳作作品を選定することが叶いました。

紙面の都合上、一部しか掲載することができないことが残念です。

末筆になりましたが、本誌の刊行に当たり、御審査と御指導を賜りました先生方に、誌上を借りまして厚く御

「みちのく」少年編第42号
令和3年3月発行

編集発行 仙台矯正管区第三部
〒984-0825 仙台市若林区古城3-23-1
TEL 022-286-0178